

まちの話題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



山笠の迫力に大興奮

津屋崎祇園山笠



▲写真右から新町流れ、岡流れ、北流れ

津屋崎祇園山笠の裸参りが7月20日、追い山が21日に行われました。

追い山の安全祈願を行う裸参りでは、大雨の中、締め込み姿の男たちが波折神社を参拝しました。

山笠を締めくくる追い山では、津屋崎人形で飾られた新町流れ、岡流れ、北流れの3つの山笠が、津屋崎千軒を勇壮に駆け抜けました。見物客が見守る中、昇き手たちの「オイサ」の掛け声が響くと、早朝のまちなみは興奮に包まれました。

津屋崎祇園山笠は、約300年前から行われていたとされています。今年は山笠が復活して45年を迎え、多くの人たちをつなぐ大切な行事となっています。昇き手として山笠に参加した九州工業大学の大学院生の長谷川逸人さんは「市外在住だが、大学院で市内の自然環境を研究している中で、福津が好きになって参加した。疲れたけど楽しかった」と話してくれました。

「神宿る島」の歴史と文化をたどる

福津・宗像で「海の日世界遺産めぐり」を開催

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、7月でユネスコ世界遺産の登録2周年を迎えました。遺産群が、海との関わりが深いことから、7月15日の海の日には、福津・宗像の各地で世界遺産の関連イベントを開催しました。

沖ノ島への信仰の伝統を育んだ古代豪族、宗像氏の墳墓の新原・奴山古墳群では、観光ボランティアによるガイド



▲古墳群を周遊する馬車。毎週土曜・日曜日も運行中



▲宗像市の大島から約50km先にある沖ノ島

国際アート展で福津の画家が4位に

世界100カ国・地域5683点から久保さんの作品が入賞



▲受賞作の「遊(落と穴)」

世界最大級の公募展「アトオンライン2019」で、市内在住の久保輝秋さんが4位に入賞しました。これは、審査の様子を動画配信サイトで生中継するなど公平・透明性の高い大会。受賞作は卓越した描写力と独自の技法で、少年期の郷愁と現代社会の闇が表現されています。久保さんは「常に新たな表現に挑戦していきたい」と話してくれました。久保さんは市の市章選定委員を務め、平成27年には福岡市文化賞も受けていました。

宮地嶽神社で野外音楽祭

ミヤジツク2019



▲神社の野外ステージで行われたライブ

宮地嶽神社で7月14日・15日、ミヤジツクが行われました。ミヤジツクとは、アマチュアミュージシャンによる手作り野外音楽祭のことです。今年で開催15周年を迎えたイベントです。ステージでのライブの他、飛び入りでストリートライブができるコーナーや、県内の高校軽音楽部によるバンド対決も行われ、会場は熱気に包まれました。

福津の夜空と海を彩る

市納涼花火大会



▲夜空に打ち上がった花火

市納涼花火大会が8月4日に開催され、花火の見える福岡海岸、宮地浜、津屋崎海岸に多くの人が集まりました。花火の打ち上げ前には、市親善大使のミサナガがライブを行い、爽やかな歌声が夕日に照らされた会場に響き渡りました。カウントダウンとともに打ち上がった花火は約5000発。後半20分の音楽花火では、なじみの曲に合わせて打ち上がる花火に、観客は曲を口ずさみながら夏の夜を楽しんでいました。

天然もののサザエに舌鼓

お魚センターで「さざえまつり」を開催



▲親子連れなど多くの人でにぎわいました

地域商社福津いざいが7月27日お魚センターで福津のさざえまつりを開催しました。700キロ以上のサザエが用意され、特売会やサザエ飯、つば焼きの販売などがあり、来場者はその場で新鮮なサザエなどを味わっていました。西福岡から家族で来ていた阿部聖太さんは「買ったサザエをバーベキューで楽しみたい」と話していました。